

News & Information

2021/2/24

Sino Biopharmaceutical Limited による当社株式に対する公開買付けに関する ご質問について

株主の皆様には、日頃から当社（以下「LTT」といいます。）の経営に関し、多大なるご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。本年1月26日にLTTホームページのニュースリリースにて公表しましたように、現在、タイを中心としたコングロマリットであるCPグループの製薬・医薬事業の企業集団であるSino Biopharmaceutical Limited（以下「シノバイオ」といいます。）によるLTT株式の公開買付け（以下「本公開買付け」といいます）が行われております。本公開買付けの詳細は本年1月26日付けの公表資料をご覧ください。

さて、本公開買付け開始以来、本公開買付け及び関連する事項についてLTT宛にご質問を多数頂いております。そこで、株主の皆様に対する充実した情報提供の観点から、LTT宛に多く寄せられているご質問につきまして、以下のとおりQ&Aとしてまとめましたので、ご参照いただきますようお願い申し上げます。

- Q1** シノバイオ（公開買付代理人：三田証券）から書類が届いているが一体、何が起きているのか。
- A1** LTTの第三位株主であり、LTTが資本業務提携している北京泰徳製薬（LTTの筆頭株主）の親会社であるシノバイオが、株主の皆様が保有するLTT株式を購入する（一株：34,000円）ための公開買付けを1月27日に開始しております。この公開買付けは、3月11日まで行われ、本公開買付けに設定された上限数までの範囲で、同日までに応募されたLTT株式が買付の対象となります。
- Q2** シノバイオとはどのような会社なのか。なぜ、LTT株式を公開買付けするのか。
- A2** シノバイオは香港証券取引所メインボード市場に上場している企業で、製薬・医療事業にかかる企業集団の持株会社と位置付けられています。シノバイオは約100社の子会社を有し、その中にはLTTの筆頭株主である北京泰徳製薬も含まれています。本公開買付けの目的は、シノバイオとLTTとの提携関係を強化、並びに公開買付届出書及び意見表明報告書に記載の施策を協働することによる互いの企業価値、及び株主価値の向上と聞いており、LTTと致しましても本公開買付けに賛同する旨の意見を表明しております。

- Q3 シノバイオ（公開買付代理人：三田証券）から LTT に対する公開買付けに関する資料が送られてきたが、この資料にはどのように対応すればよいのか。
- A3 本公開買付けに応募する（株主様が保有する LTT 株式をシノバイオに売却する）ことにご関心がございましたら、書面に書かれている三田証券コールセンター（電話番号：03-3666-0715）にお電話を頂ければ、詳しい説明を受けられる、と聞いております。
- Q4 今回公開買付けに応募しない場合、次に売却できる機会はいつになるのか。
- A4 LTT 株式は上場廃止になっておりますので、現在、株式市場を通じた売却の機会はありません。なお、シノバイオは公開買付届出書の中で「現時点で、本公開買付け後に対象者株式を追加で取得することは予定しておりません」と記載しております。また、LTT が把握する限り、現時点で他社によるものを含め、本公開買付け以外の公開買付けは予定されておられません。
- Q5 LTT が再上場するなら株を保持したいので、再上場の見通しを教えてください。
- A5 LTT としては、企業価値の維持・向上の観点から、再上場を含めて最適な資本政策の検討を続けておりますが、現時点では、具体的な再上場の見通しは立っておりません。
- Q6 昨年の株主総会で「再上場に向けて努力する」と言っていたが、どのような努力をしたのか。
- A6 昨年の株主総会で報告しましたように、現経営陣は再上場への具体的な検討を含め最適な資本政策について検討を開始し、外部専門家に助言を依頼しました。そのなかで、大手シンクタンクからは、過去の上場廃止に至った経緯などの問題点を指摘されました。また、現時点では、積極的に再上場を支援し、再上場へのコンサルティングを引き受けてくれる証券会社は見つかっておりません。
- Q7 本公開買付けの買付金額は、安いのではないか。
- A7 本公開買付けの買付金額は、LTT が取得した株式価値算定書と比較しても不合理ではないと考えておりますが、本公開買付けへの応募判断については各株主様のご判断に委ねるべきと考えております。なお、シノバイオ及び北京泰徳製薬並びに LTT との間で利害関係を有していない 3 名の委員から構成される特別委員会においても、本公開買付け価格には一定の合理性が認められると判断されております。

- Q8 本公開買付けが成立した場合に、LTT はシノバイオに乗っ取られて子会社になるのか。
- A8 シノバイオより LTT を子会社化することは企図していないと説明を受けており、本公開買付けにおいてもシノバイオグループが保有する割合が 50%未満となるよう上限が設定されております。
- Q9 中国における薬価抑制政策等により、今年の北京泰徳からの受取配当金は減るのではないか。
- A9 一般に中国における薬価抑制政策等により、北京泰徳製薬を含む中国製薬企業が影響を受けていることは事実ですが、LTT としては、2020 年 12 月期の北京泰徳製薬の具体的な配当金に関して、現時点で確定的な情報は得ておりません。
- Q10 今期の LTT の業績はどのような着地になる見込みか。
- A10 LTT の利益の多くは北京泰徳製薬からの受取配当金となりますが、LTT としては、その配当金の見通しについて現時点で確定的な情報は得ておりません。
- Q11 本公開買付けに応募したほうがよいのか。
- A11 上場廃止となっている現況下において、公開買付けは株式売却の機会を一定程度提供できる手法であると考えておりますが、本公開買付けの応募判断について LTT としては各株主様のご判断に委ねるべきと考えております。
- Q12 昨年の総会で株主提案をした水島記念財団が本公開買付けにも反対しているようだが、どう考えているのか。
- A12 LTT として、個別株主様のお考えについて言及することは控えさせていただきます。LTT としては本公開買付けに対して賛同しつつ、公開買付けへの応募判断については株主の皆様ご自身に判断に委ねるべきと考えております。何卒、ご理解賜れますと幸いです。

以上